

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポメロ		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 1日		～ R8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員に言われて動くではなく、子供たちお互いに意見を出し合い率先して話し合いを行い、それぞれが妥協点を見つけ折り合いをつける事で、主体的に動く事が出来ている。	職員間で密に連携を図る事で児童の特性、強みを見つけ情報共有をするようにしています。集団活動のロールプレイでは「こういう時、どうしよう？」を子供たちに投げかけ実際に役になりきってみる事で、相手の立場に立ち考える力を養い、実際の場面になっても直ぐに動けるよう取り組んでいます。	イベントや行事・調理実習でも、子供たちが自分から進んで考えられるよう、職員が大きな流れ(レジユメ)を作成し、その中で自由に取り組んでもらえる様に、余裕のある活動計画を立てていきます。
2	安心安全に様々な事を体験出来る環境の提供。	事業所で作成している「年間安全計画」に基づき、定期的に設備の安全確認を行い、イベントで外出する際にも必ず下見・実際に行った後には危険箇所がなかったかの振り返りを行っています。また、長期休みには普段の活動とは異なった各種イベントを計画し、児童が様々な体験を通して経験を積む事の出来るよう外出する機会を増やしています。	日々行っている打合せでも、活動時に気付いた事やヒヤリハットを職員間で共有する。活動プログラムを作成する中で、個々の特性を考慮しながらも様々な経験を積めるよう、児童や保護者にとって魅力的と思っていただけのようなプログラムの立案に努めます。
3	利用児童や保護者に対する支援内容や児童の状況・状態についての丁寧な説明。	送迎時や連絡帳、電話等で活動内容や児童の様子について、細やかにお伝えするようにしています。面談で来所いただいた際には、保護者より支援に関する不安や当事業所で行っている事での不明点等を伺い、その場で支援の様子を見てもらい丁寧に説明する事で家族支援に繋がっています。	ポメロでの体験を通して社会性を身に付け、様々な体験を「怖い…」等のネガティブな気持ちではなく「わくわくする」と変えていけるよう、今後も職員が研修に励みスキルアップする事で、多くのアイデアを出し合いながらプログラムを作成する事に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ある程度固定された送迎ルートの為、その範囲外の児童については自力通所・保護者送迎でないと受け入れが難しくなってしまう。	職員・車の台数も限りがあり、学校同士の距離があり移動に時間が必要となる為、広範囲となると支援時間が必然と短くなってしまいます。	送迎の効率を良くする為、今ある既存のルートを組み換えたりする事で、1人でも多くのご利用児童を受け入れられるよう考えていきます。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会が少ない。	施設外活動時、健常児と関わる機会はあるのですが、必ずではないので機会としては少ない。	長期利用時等、体育館を利用する際に地域の小学生クラブチーム等に声をかけ、一緒にスポーツをする機会を検討していきます。
3	保護者同士が関わる機会が少ない。	事業所説明会への参加人数が集まらず、保護者同士が集まり関わる機会が殆どありませんでした。	長期休みに行っている調理実習等の時を利用して保護者を招いたり、児童の保護者同士が関り情報共有出来る機会を作っていきます。